

人口動態からみるまちづくり

～データの可視化によるアプローチ～

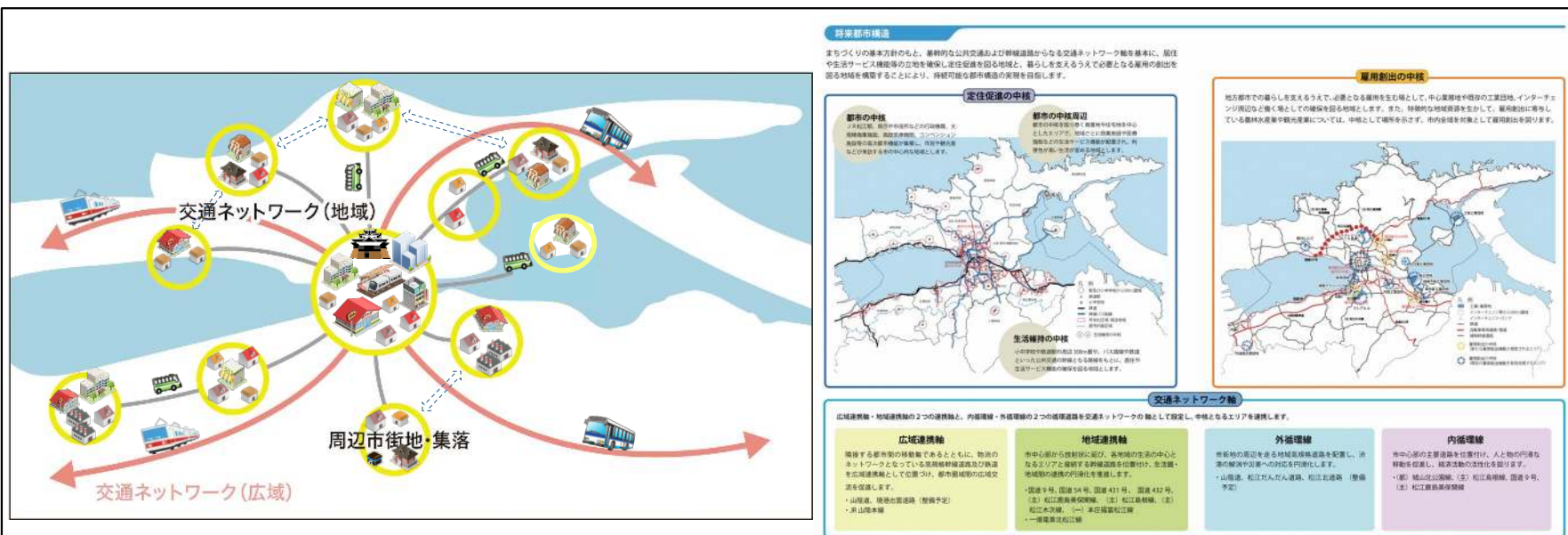


写真：3D都市モデル「PLATEAU」松江市版

島根県松江市まちづくり部都市政策課

1. 松江市の目指すまちづくり

松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」において、本市が目指す将来のまちのかたちとして、コンパクト・プラス・ネットワークの形成と中心市街地の再生による『市域内のバランスのとれた発展』を掲げている。



左図：コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ【松江市総合計画】

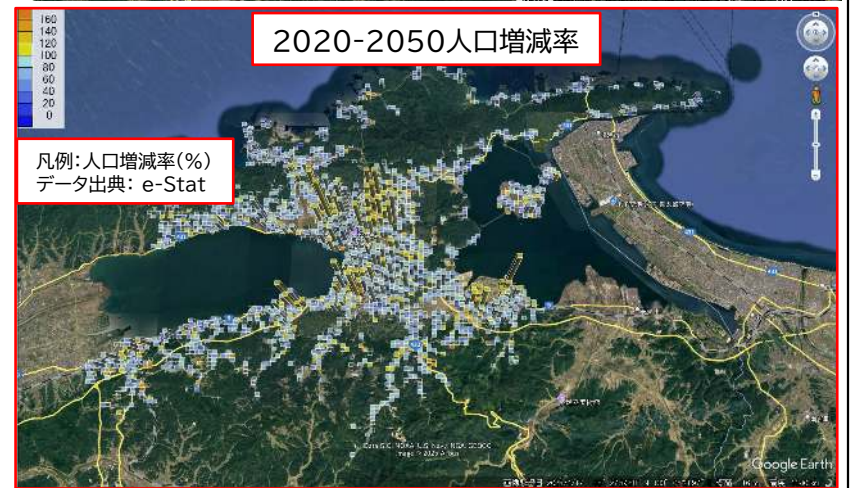
右図：将来都市構造【松江市都市マスタープラン】

2. データの可視化によるアプローチ

将来のまちのかたち（都市構造）を目指すにあたり、人口動態のデータの可視化によりわかりやすく現状を捉えたい。



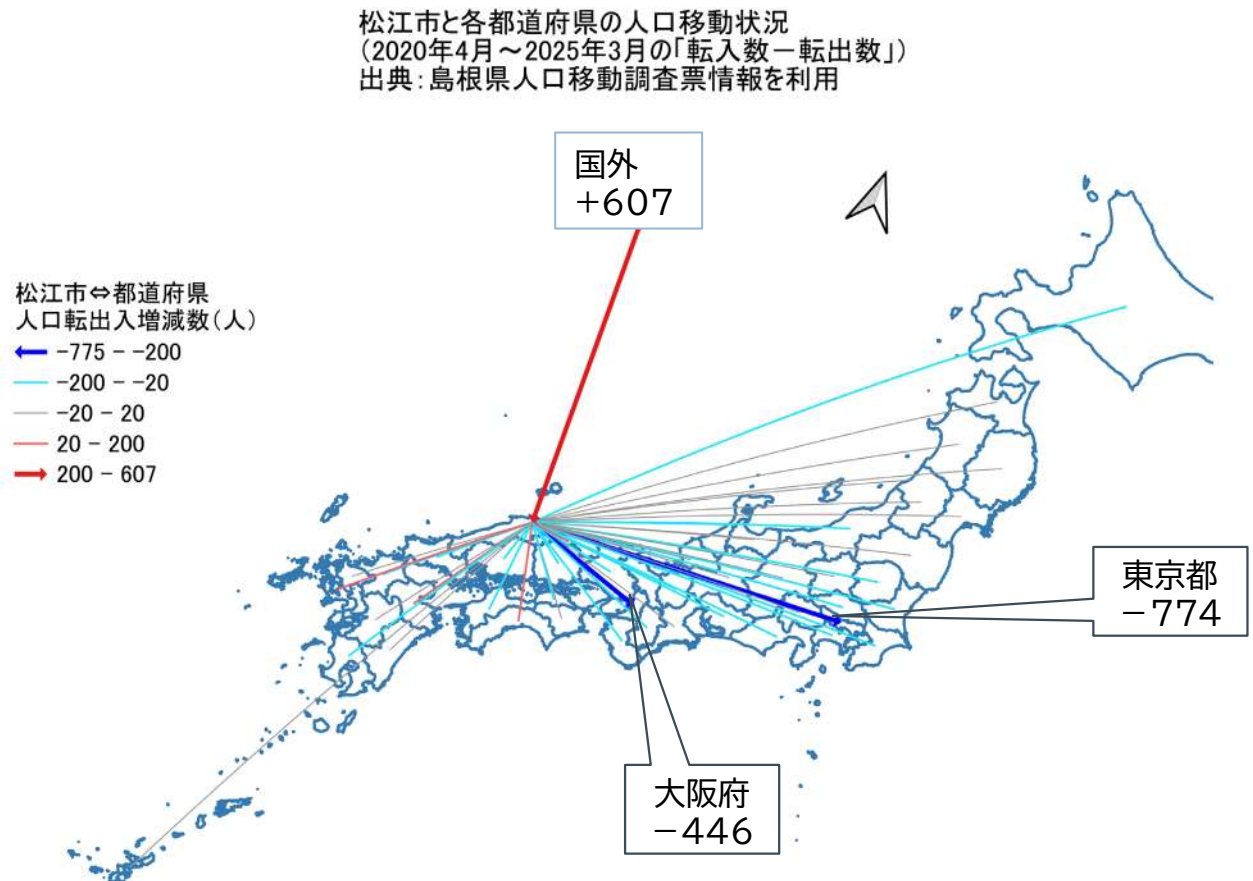
- ・ 現状の推計値では、市内全域で人口減少が見込まれる。
- ・ 人口の動態を詳細に検証していくため、i-都市再生実務研修により得た知識を活用し、各種データの可視化に取り組んだ。



3.全国レベルの人口動態の可視化

過去5年間ににおける松江市と各都道府県の人口動態をみると、首都圏・近畿圏への流出が大きい。一方で、国外からの流入が多くみられる。総数では流出過多（-2173）となる。

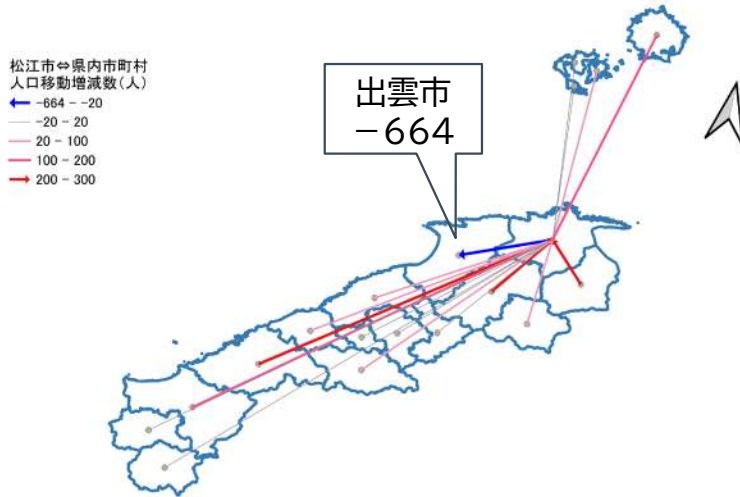
- ・大都市圏への人口流出が感覚的なものではなく、可視化で示すことができた。
- ・単純な人口動態のみならず、関係人口・二地域居住などのデータを可視化できるとより解析度が高くなると考える。



4. 島根県内での人口動態の可視化

松江市と島根県内の人口動態をみると、松江市への流入が大きい。ただし、出雲市に対しては、流出過多になっている。若年層（15歳～34歳）に絞った動態についても概ね同じ傾向である。

松江市と県内各市町村の人口移動状況
(2020年4月～2025年3月の「転入数－転出数」)
出典:島根県人口移動調査票情報を利用



松江市と県内各市町村の若年層(15歳～34歳)人口移動状況
(2020年4月～2025年3月の「転入数－転出数」)
出典:島根県人口移動調査票情報を利用

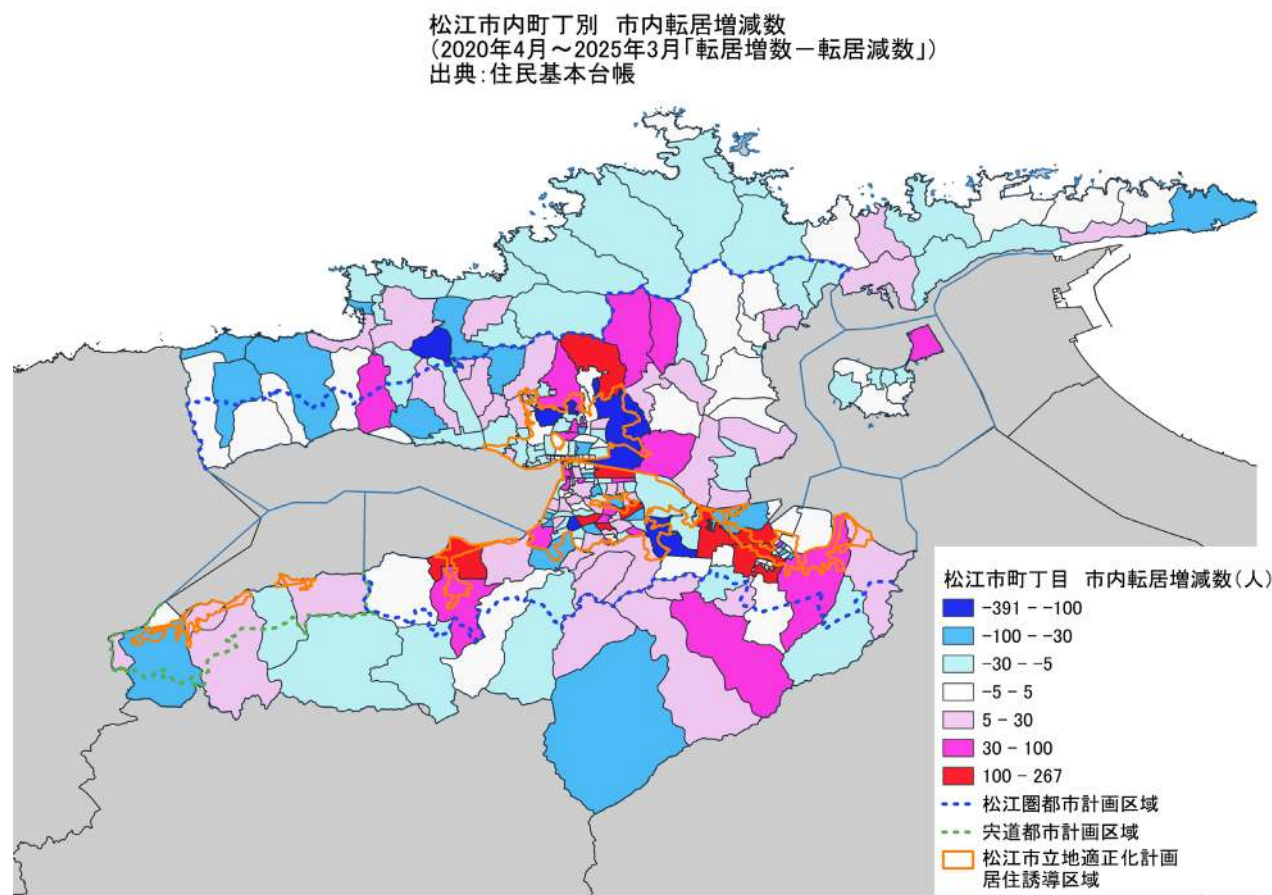


・ 出雲市への流出過多は、様々な要因が考えられるため、転出理由（就学・就職等）をさらに分析・可視化を進めていきたい。

5.市内での人口動態と立地適正化計画

市内転居の町丁別増減と松江市立地適正化計画における居住誘導区域を重ねて表示した。誘導区域内の転居減や誘導区域外での転居増が見られるなど、課題が可視化できた。

- ・現状は町丁別のデータしかないため、さらなる検討には詳細な人口動態データが必要である。

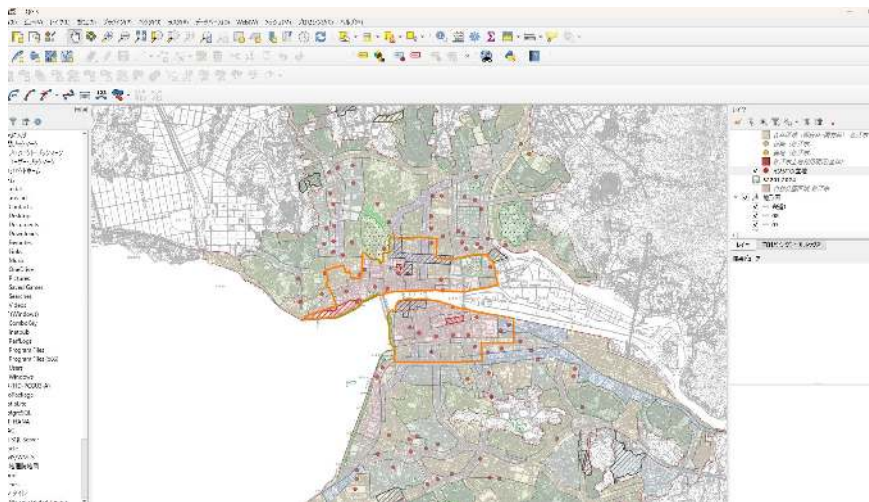


6.今後の取り組み

今回の報告では、人口動態に係るデータの可視化を中心に取り組みを紹介した。今後は、土地利用制度の検討や対外説明のために、可視化資料を活用していく。

また、3D都市モデルとの連携やGISを各種業務に活用していくことも同時に取り組んでいきたい。

【今後の取り組み例】



左図：QGISを用いた都市計画情報とマンションの立地状況との比較・検証

右図：3D都市モデル「PLATEAU」松江市版



ば そ あ
け げ、 げ、



松江市PRキャラクター おまっちゃん



小泉八雲とセツが出会ったまち 松江